

# 第17回 生物生産学部編 ～ 実習内容 ～

## コアコース：クマノミとイソギンチャクとの共生関係について

《担当教員》  
河合 幸一郎

クマノミとイソギンチャクとは共生関係にあり、クマノミの方は捕食者から身を守ってもらい、イソギンチャクの方は餌を運んでもらうと考えられています。クマノミにもイソギンチャクにもいろいろな種類があります。そこで、クマノミの種によって共生するイソギンチャクの種は違うのかどうかを水槽飼育実験で観察し、それがどのような意味を持つのかを考えてみましょう。



## サブコース1：植物からDNAを抽出してみよう

《担当教員》  
富永 るみ

生物の研究において頻繁に用いられ、重要な操作として位置付けられているDNA抽出法を体験することができます。実際に実験を体験することによって、研究に興味を抱いて頂きたいと思います。



## サブコース2：多彩・多才な海藻類を観察しよう

《担当教員》  
加藤 亜記

ノリ、ワカメ、ヒジキなどの「海藻」は、日本人の食卓には欠かせない食材ですが、生き物としてはあまり知られていないのではないのでしょうか？そこで、海藻の様々な色や形、生態系での機能にも関係する光合成色素について学びましょう。



## サブコース3：乳牛はどうしてたくさんのミルクを生産できるのか？

《担当教員》  
沖田 美紀

1頭の乳牛が生産するミルクの量は、生物としての牛が本来の目的とする子牛への哺乳の必要量を、はるかに超えています。たくさんのミルクを生産することによって、ヒトの食料となる牛乳や乳製品（バター、チーズなど）を生産する酪農が成り立つことになります。ミルクのもとになるのは乳牛が食べる飼料です。酪農業を成り立たせるたくさんの飼料摂取と、消化・吸収がどのように行われているかを、廣大農場の牛舎で牛を見ながら確かめましょう。

